

I 教育理念・目的・目標

教育理念

茨城県立看護大学校は、地域医療を支え、県民の健康の担い手として、あらゆる場で活躍できる、質の高い助産師・看護師の育成を使命とする。

看護学は、生命の尊厳と人間愛を基盤とした実践の科学であるとともに、対象のあらゆる健康の段階に働きかけ、対象がその人らしい生活をおくれるよう支援することである。

さらに、看護の対象は、多様な価値観をもち地域社会の中で生活し、成長・発達・変化し続ける人間であることから、専門職業人として豊かな人間性と倫理観を養うとともに、他の専門職種等と連携・協働し、生涯学び続ける姿勢をもち、社会のニーズに即した看護実践力の育成を目指す。

教育目的

助産師・看護師として必要な専門的知識及び技術を修得させ、豊かな人間性と倫理観を養い、専門職業人として社会に貢献できる人材を育成する。

教育目標

- 1 豊かな感性と教養を培い、高い倫理観及び人間関係形成能力を養う。
- 2 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と看護実践能力を養う。
- 3 地域社会の保健・医療・福祉における看護の役割と責任を自覚し、多職種と連携・協働できる能力を養う。
- 4 専門職業人として、生涯を通じて自己研鑽し、看護の質向上のために探求し続ける能力を養う。

Ⅱ 教育目標の軸となる「ポリシー」

1 卒業認定の方針(ディプロマポリシー)

- 1) 多様な人々の生活・文化を尊重し、人々の相互の関係を確立・発展させるための知識・技術・倫理的態度を身につけることができる。
- 2) 専門知識と科学的根拠に基づいた判断力と実践力を身につけることができる。
- 3) 多様な場における看護の役割を理解し、多職種と連携・協働できる力を身につけることができる。
- 4) 看護の質向上を目指し、最新の知識・技術を学び続けることができる。

2 教育課程の基本的な考え方(カリキュラムポリシー)

本校は、茨城県の地域医療を支え、県民の健康の担い手として、あらゆる場で活躍できる、質の高い看護師の育成するために、次のようなカリキュラムを編成し、実践する。

茨城県総合計画や茨城県保健医療計画に示されている多様な保健医療福祉のニーズに対応するために、①感性、②思考力、③実践力、④成長力を発展させながら看護実践力を育成するカリキュラムとし、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」で編成する。

また、4年制化により拡充した学習時間は、基礎分野及び看護実践能力を強化する科目に充当する。基礎分野は思考力・判断力・表現力の育成や学習継続力を養うため、学士力「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」に相当する科目とし、習得した基礎知識・技能を活用して課題を解決する能力を養う。看護実践能力は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野で編成し、臨床場면을想定したシミュレーション学習や臨地実習を増やすことにより強化する。

学修成果は、多様な学習活動を評価するために筆記試験に留まらず、パフォーマンス評価等を取り入れ、多面的・多角的な評価を行う。領域別実習前及び卒業前には OSCE(客観的臨床能力試験)を実施する。評定は、「S(90～100点)」、「A(80～89点)」、「B(70～79点)」、「C(60～69点)」、「D(59点以下)」の5段階とし、60点以上を合格とする。

感性(「ディプロマポリシー1」に対応)

- 1年次:地域を基盤にした人々の健康や暮らし、生活文化に関心が持てる。
- 2年次:個別の価値観・信条や生活背景を踏まえたその人らしい生活に関心が持てる。
- 3年次:対象の尊厳と権利擁護のための倫理的な課題に気づくことができる。
- 4年次:対象の生命、生活、多様な価値観を理解し、尊重することができる。

思考力(「ディプロマポリシー2」に対応)

- 1年次:科学的根拠に基づいた看護実践の必要性を理解できる。
- 2年次:対象の心身社会面を観察し、客観的・主観的データに基づき健康課題を判断できる。
- 3年次:生涯各期の成長・発達・加齢の特徴に関する知識に基づき、健康課題に応じた看護計画を立案できる。
- 4年次:これまでに獲得した知識やIT技術を活用し、多様な場に応じた看護を理解できる。

実践力(「ディプロマポリシー2」に対応)

- 1年次:自己の援助が対象に与える影響を考えることができる。
- 2年次:安全安楽を踏まえた日常生活援助技術を実践できる。
- 3年次:統合された知識・技術・態度を基に、根拠に基づいた看護実践ができる。
- 4年次:臨床判断に基づく看護実践ができる。

成長力(「ディプロマポリシー3・4」に対応)

- 1年次:自己及び他者理解に目を向け、人間関係形成に関心が持てる。
- 2年次:チームの目標達成に向けて、他者との対話を通して協働できる。
- 3年次:看護職としての自己のキャリアデザインを描くことができる。
- 4年次:看護専門職としての自覚と責任を持ち、自己の看護観を語るすることができる。

3 入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)

- 1) 看護学科で必要とする基礎的な知識・技能を有する人
- 2) 相手を尊重する言葉や態度で他者に伝える力のある人
- 3) 問題を発見し解決に向けて考える力のある人
- 4) 本校入学までの就業体験活動(又は就業)やボランティアを通して多様な人々と協力して学ぶ力のある人

年次到達目標	①感性	②思考力	③実践力	④成長力
4年次 ①対象の生命、生活、多様な価値観を理解し、尊重することができる。 ②これまでに獲得した知識やIT技術を活用し、多様な場に応じた看護を理解できる。 ③臨床判断に基づく看護実践ができる。 ④看護専門職としての自覚と責任を持ち、自己の看護観を語る事ができる。	芸術	情報科学II 看護に活かす経済と経営 社会保障と福祉 総保健医療論 災害看護 国際看護 看護学総合技術演習II(多重課題) 医療安全II	救急看護 看護学総合技術演習III(OSCE) 成人・老年看護学実習II 成人・老年看護学実習I 小児看護学実習 母性看護学実習	チーム医療論II 看護研究II 看護の探求IV 統合実習I 統合実習II
3年次 ①対象の尊厳と権利擁護のための倫理的な課題に取り組むことができる。 ②生涯各期の成長・発達・加齢の特徴に関する知識に基づき、健康課題に応じた看護計画を立案できる。 ③統合された知識・技術・態度を基に、根拠に基づいた看護を実践できる。 ④看護観としての自己のキャリアアセスメントを描くことができる。	看護倫理	地域・在宅看護論演習II 薬物療法と看護 リハビリテーション 終末期看護 小児看護学援助論I 小児看護学援助論II 母性看護学援助論演習 精神看護学援助論演習 医療安全I	看護における基本技術III 看護における基本技術II 診療に伴う看護技術II 地域・在宅看護援助論III 看護学総合技術演習I(OSCE) 地域・在宅看護学実習II 地域・在宅看護学実習I 老年看護学実習 精神看護学実習	チーム医療論演習 リハビリテーション 看護研究I 看護の探求III
2年次 ①個別の価値観・信条や生活背景を踏まえたその人らしい生活に関心が持てる。 ②対象の心身社会面を観察し、客観的・主観的データに基づき健康課題を判断できる。 ③安全・安楽を踏まえた日常生活援助技術を実践できる。 ④チームの目標達成に向けて、他者との対話を通して協働できる。	文学 倫理学 ポアンティア論	教育学 家族社会学 運動と健康 疾病治療論VI~IX 薬理学 栄養学 公衆衛生学 リハビリテーション看護 看護を展開する技術II 地域・在宅看護援助論I 慢性期看護I 慢性期看護II 母性看護学援助論I 小児看護学援助論I 精神看護学援助論 基礎看護学実習III 基礎看護学実習IV	診察に伴う看護技術I 看護における基本技術I 日常生活援助技術I 日常生活援助技術II リハビリテーション	看護の探求II
1年次 ①地域を基礎にした人々の健康や暮らし、生活文化に関心が持てる。 ②科学的根拠に基づいた看護実践の必要性を理解できる。 ③自己の援助が対象に与える影響を考へることができる。 ④自己及び他者理解に目を向け、人間関係形成に関心が持てる。	地域学 心理学 思想と宗教 哲学 福祉リハビリテーション 基礎看護学実習I 基礎看護学実習II	論理的思考 看護と科学 情報科学I 英語コミュニケーション 形態機能学I~IV 疾病治療論I~V 看護学概論 地域・在宅看護論概論 看護対象論概論 統計学 治癒論 微生物学	看護における基本技術I 日常生活援助技術I 日常生活援助技術II リハビリテーション	人間関係論 看護の探求I チーム医療論I

シミュレーション教育：
■ タスク・トレーニング
■ アルゴリズム・ベースド・トレーニング
■ シチュエーション・ベースド・トレーニング
■ 実習